

日本社会の硬直性（終身雇用、縦割組織、男性社会など）を克服するには(?)

鬼木 甫

大阪学院大学・大阪大学

I. 日本社会の硬直性：

1. 終身雇用 — 産業間労働移動の阻害、不況時雇用調整の困難、学歴社会、
受験戦争、学校教育・青少年心理への影響
2. 縦割組織 — 「広域型決定」の困難（人事、予算）、機能的分業の困難（「分野ごと一括請負型分業」に依存）、セクショナリズム、閉鎖型（幕藩体制型）自治
3. 男性社会 — 女性への実質的差別、女性労働力ポテンシャルの遊休化、人口
再生産力の低下（長期的人口減少）
 - ・ 固定環境・単純成長経済には適応（復興・成長時代）、しかし、変動環境・多
様化・適応経済には不適（平成バブルと不況）
 - ・ 社会が病気（成人病型）になっている——老化現象

II. システムの老化・不適応・病気への対応法：

1. 現象の観察と記述・記録
2. 診断と病因究明（病理学的基礎、生理学的基礎）
3. 治療目標・方針の決定
4. 処方、療法、対処法の記述
 - 対症療法（短期的）、体質改善（長期的）

Ⅲ 「硬直性」の原因究明：

1. 他者（外国）との比較 —

東南アジア、東アジア、ヨーロッパ、北米

- ・なぜ先進諸外国では硬直性が生じないのか（？）
- ・なぜ日本（東南アジア、東アジア）では硬直性が「求められる」のか（？）

2. 組織の素材（＝人間・個人） —

- ・（個人の素質） — 体力、気力、知的能力（理解と創造）、
- ・（人間関係の基盤） — 相互協力、互譲の精神、礼儀作法とエチケット、指導と服従、競争・称賛・嫉妬感情のコントロール、優勝劣敗の結果を受け入れ、他者の長所を認める、自主性とその尊重、プライバシーの尊重、人種差別感情の克服

3. 組織形成・運行の「道具箱 (toolbox) 」 — 「人間関係」のための情報手段、組織形成・運行のための「技術」（社会規模の情報技術）

・レベル1：

- A. 音声（表情、身振りなどを含む）
- B. 文字、記号、数字、表

・レベル2：

- A. 直接会話・対話、会議、電話、テレビ会議、テレビ電話
- B. 文書送付・配付・交換（手渡し、郵便、Eメール、Web）

・レベル3：

- A. 合意・決議（結論のみを書いた議事録）、暗黙の合意、慣習・前例、常識（暗黙の多数決）の適用、口頭指示・示唆
- B. 法律、規則、命令、マニュアル、組織内規則、内規、契約、合意文書、文書記録、データベース、統計資料

4. 日本型組織の特色（本発表の中心仮説） —

- ・「音声型手段（A型手段）」への依存度が極めて大 — 「文書型手段（B型手段）」を極端に軽視・排除 — A・B間のアンバランス
- ・直接的、非定型的、感性・感情的、非論理的、無条件決定が支配（条件付決定の欠落）、役割分担度が低い（ジェネラリストが多数）、不文律・前例の支配、暗示・暗黙同意の多用（明示表現の忌避）、定型情報量が極端に少ない....

IV. 諸例：

1. 企業組織 —

経理、人事、業務分担、
株式市場の非成立、間接金融（銀行貸し出し）依存

2. 政府・地方公共団体 —

人事、予算、決算、なわばり型の業務分担

3. 大学 —

全学評議会、役職・管理職、講座制・教科目編成・内容決定

4. 議会・国会 —

運営規則の弱体化・欠落、審議・決定能力の減退、

5. 国家 —

憲法の空洞化、権限の行政組織への実質的委譲

6. 情報ネットワーク

「何をネットワークに載せるのか（?）」

7. 情報公開

「何を公開するのか」

V. 対処法・処方：

1. 短期的

文書様式の開発・標準化（B型情報交換を容易にする）

2. 長期的な組織体質改革

文書情報力向上のための教育・訓練

3. 「日本古来の文化の変革」は可能か（？）

「日本社会の硬直性（終身雇用、縦割組織、男性社会など）を克服するには（？）」、大阪国際サイエンスクラブ『会員の集い』（1999年5月18日）における発表。

E-mail: oniki@iser.osaka-u.ac.jp

Web: <http://www.crcast.osaka-u.ac.jp/oniki/>

<http://www.osaka-gu.ac.jp/php/oniki/>（ミラー）
